人とペットの豊かな共生社会

第180号

ペット&ライフ Life

ペット産業情報新聞

PET & LIFE INFORMATION

ペット産業情報新聞
2021(令和3)年
発行：産業情報新聞社
尼崎市北城内88-4-2-102
TEL06-6415-8561 FAX06-6415-8563
http://www.e-iip.co.jp/

小動物飼養販売管理士ライセンス発行組合
PSG
農林水産省・環境省認可 http://psg-pet.jp
協同組合ペット・サービスグループ

2021年 NEW YEAR MESSAGE

VISION VETS GROUP Lab
センター長
東京大学名誉教授
中山 裕之

丑の年に犬と猫の名前と由来を思う

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延で明け暮れた1年でした。一刻も早い災厄の終息と、日常の回復を祈るばかりです。

さて、ペット保険の会社が、毎年ペット名のランキングを発表しています。トップ3を見てみますと、犬の場合、A社（2020年）は雄がソラ、レオ、コタロウ。雌はココ、モモ、ハナ。B社（2018年）は雄がレオ、マロン、チョコ。雌がココ、モモ、モカです。

一方、猫では、A社は雄がレオ、ソラ、マル。雌がモモ、ムギ、ココ。B社は雄がレオ、マロン、ソラ。雌がキナコ、モモ、ココでした。

犬猫を問わず、雄ではソラとレオが、雌ではココとモモが昨今の流行りのようです。昔の犬の名前の定番であったポチ、シロ、クロ。猫の定番タマ、トラ、ミケはどこへ行ってしまったのでしょう。おそらく、飼育される犬や猫のほとんどが純粋種になったことが理由なのだと思います。

実際、いわゆる雑種犬や日本猫には、昨今なかなかお目にかかれません。人でもそうですが、ペットの場合も名前は世情につれて変遷するものなのでしょう。

そう言えば、筆者が幼い頃、祖父が某所から雑種犬を譲り受け飼い始めました。比較的毛が長い白と黒のぶち模様の中型犬でした。当時流行していた日本スピッツの血が入っていたらしく、盛んにキャンキャンと吠えていたことをよく覚えています。

確か、「コロ」という名前でしたが、太っていたわけでもなく、高く済んだ声で鳴くわけでもありませんでした。しいて言えば、目まぐるしくコロコロと動き回る様から連想した名前だったのかもしれません。

祖父母はもちろん、父母も亡くなっていますので、今となっては名前の由来を知る者はいません。当時の情景が急に脳裏に浮かんできました。

郷里に縁者はもういませんが、コロナ禍が終息したら訪ねてみたいと思っています。

丑年の年頭には相応しくない、犬も食わぬ九牛の一毛のような文章でした。ご容赦ください。